

## 1、圏域の概要

### (1)水産業の概要

#### ①圏域内に位置する市町村および漁業協同組合の概要

当該圏域は、九州の北西、福岡県と対馬島のほぼ中間に位置し、水産業が基幹産業となっている。

漁業協同組合は、旧4町時代と変わらず、郷ノ浦町漁協（郷ノ浦町）、石田町漁協（石田町）、勝本町漁協（勝本町）、箱崎漁協（芦辺町）、壱岐東部漁協（芦辺町）の計5漁協がある。漁協の合併については、現在のところ予定はない。

#### ②主要漁業種類、主要魚種の生産量、資源量の状況

当該圏域は玄海灘に囲まれ、対馬暖流に接していることから、全国でも有数の好漁場である。

当該圏域では、いか釣漁業、釣漁業を主体として、採介藻漁業、定置網漁業が行われるとともに、島東部及び南部の静穏域では、魚類、真珠、カキ類の養殖が行われている。

当該圏域の漁業生産量は1,916トン（H31）で、主要魚種は、ぶり（531トン）、いか類（521トン）で合わせると全体生産量の54%を占める。その他に、さわら（168トン）、マグロ類（107トン）、さざえ（112トン）等が陸揚げされている。

当該圏域の漁業生産量は減少傾向で推移しているが、定着性水産資源の増産を図るため、平成21年から壱岐栽培センターでアワビ、ウニ、カサゴの放流用種苗の生産に取り組んでおり、資源の維持・増大を目指している。

#### ③水産物の流通・加工の状況

圏域内で水揚げされた水産物の流通は、県外に約7割弱が出荷されており、そのうちの6割は福岡、3割は京阪神へ出荷されている。

代表的な加工品は、ウニの瓶詰めやアジ・イカの干物等があり、壱岐市のふるさと納税の返礼品として全国へ出荷されている。

#### ④養殖業の状況

当該圏域では、郷ノ浦地区と石田地区の2箇所でクロマグロの養殖を行っており、生産量は395t、産出額は10.3億円である。水揚げは壱岐島内の各港で行

い、フェリーで島外へ出荷している。

#### ⑤漁業経営体、漁業就業者（組合員等）の状況

当該圏域における漁協組合員数は、平成31年末で、正組合員数871名、准組合員数1,645名と、近年減少傾向にあるが、新たな担い手の確保をめざし、地元小中高生や漁業に関心がある就業希望者・移住希望者などに対する情報発信の強化と漁業体験などに取り組んでいる。

#### ⑥水産業の発展のための取組

浅海域漁場の高度利用として、新しい養殖への取り組みや漁場の適地判断等を検討するために、沿岸でワカメ、コンブなど養殖の試験に取り組んでいる。また、漁業士会による漁法や鮮度保持技術の検討、先進地視察、他県の漁業士会との意見交換など、水産業の発展のための取り組みが行われている。

各漁協では「浜の活力再生プラン」を策定し、水産業の維持・発展及び活力ある漁村の実現を目指している。

#### ⑦水産基盤整備に関する課題

漁業生産が減少していく中で、それを維持するため、一本釣り等が対象とする魚種の滞留効果を高める漁場造成、特産の定着性魚介類の資源回復、漁場環境の改善等と併せ、資源を持続的に利用する管理体制の整備が必要である。

また、高齢化等により後継者不足の解消、担い手の確保のため、新規就業者の確保、漁家子弟や漁業従事者の自立にあたっての着業支援など、地域の受け皿づくりと支援措置を充実する必要がある。

さらに、漁業の収益性の改善を図るため、漁獲物の高付加価値化のための技術導入、流通コストを縮減するための供給体制の見直しが課題である。

#### ⑧将来的な漁港機能の集約化

出荷機能や準備機能等の漁港施設については今のところ集約の予定は無い。

(2)圏域設定の考え方		
① 圏域タイプ	外海離島型	設定理由；良好な漁場に近接する外海に位置する離島で、前進基地として水産物生産の安定かつ強化および、排他的経済水域等の保全上の重要性を有する。
② 圏域範囲	第1種漁港：9漁港 第2種漁港：なし 第3種漁港：1漁港 第4種漁港：1漁港 特定第3種漁港：なし	設定理由；良好な漁場に近接する外海に位置する離島で、前進基地として水産物生産の安定かつ強化および、排他的経済水域等の保全上の重要性があり、島内で水揚げした水産物を多大な消費地である福岡の市場へ出荷を行っている。
③ 流通拠点漁港	該当なし	設定理由；なし
④ 生産拠点漁港	芦辺漁港 大島漁港 八幡浦漁港 渡良漁港	<p>設定理由；</p> <p>芦辺漁港は3種漁港で集出荷・準備・休憩機能を有しており、定置網漁と一本釣り漁が主な漁業である。魚種はぶり、イカ類が主で、H31のぶりの陸揚量は圏域内の約26%を占めている。また、本土への定期航路を有しており、県内で陸揚げされた漁獲物の生産・流通拠点港としての役割が大きい。</p> <p>大島漁港は4種漁港で避難港の役割を有している漁港であり、主な漁業は採貝藻業である。漁港内にある壱岐栽培センターで放流用の稚貝・稚魚等（アカウニ29万個、アワビ29万個、カサゴ21万尾：R1実績）を中間育成し、圏内に出荷しており、生産拠点港としての役割が大きい。</p> <p>八幡浦漁港は1種漁港ではあるが、集出荷・準備・休憩施設を有しており、壱岐東部漁協内で漁獲された</p>

		<p>漁獲物が当漁港の施設で陸揚げされている。主な漁業は一本釣りであり、魚種はサワラが主で、H31 のサワラの陸揚量は圏内の 48%を占めている。</p> <p>渡良漁港は1種漁港ではあるが、一定の港勢（利用漁船数：87 隻、属地陸揚金額：1.2 億円）を有している。主な漁業は延縄、いか釣りであり、魚種はいか、ぶり、さざえが主で、H31 のさざえの陸揚量は圏内の 17%を占めている。</p>
⑤ 輸出拠点漁港	なし	設定理由；なし
⑥ 養殖生産拠点地域	郷ノ浦地域 石田地域	設定理由；養殖クロマグロの生産を2地域で行っている。魚種別海面養殖業産出額は、郷ノ浦が 6.8 億円、石田が 3.5 億円に上る地域である。

(令和元年)			
圏域の属地陸揚量(トン)	1,916	圏域の登録漁船隻数(隻)	1,361
圏域の総漁港数	11	圏域内での輸出取扱量(トン)	0
圏域で水産物の水揚実績がある港湾数	4		

⑦ 養殖生産拠点地域		
当該圏域を含む養殖生産拠点地域	壱岐（郷ノ浦）	壱岐（石田）
当該圏域を含む養殖生産拠点地域における主要対象魚種	クロマグロ	クロマグロ
当該圏域を含む養殖生産拠点地域における魚種別生産量（収穫量）（トン）	263	132
当該圏域を含む養殖生産拠点地域における魚種別海面養殖業産出額（百万円）	681	350

## 2. 圏域における水産基盤整備の基本方針

### (1) 産地の生産力強化と輸出促進による水産業の成長産業化

#### ① 拠点漁港等の生産・流通機能の強化

大都市圏への販路拡大のための輸送コストの低廉化や加工品開発支援など「流通強化・ブランド化」が必要である。都市圏等大消費地への流通拡大を図るため、産地と消費者を結ぶ情報ネットワークや協業化による効率的な出荷体制の整備による流通コストの削減を図る。また、安心・安全な加工施設整備を推進するとともに、漁村加工をはじめ、地場産業や観光、漁業協同組合等と連携して加工製品開発を推進する。壱岐の主要海産物であるイカ、ブリ、サワラ、マグロ、ウニ、牡蠣等地域の資源を活かした壱岐ブランドづくりを推進することにより、付加価値の向上に取り組む。

壱岐東部漁業協同組合にて、自営事業として牡蠣の養殖・販売を行っており、その一部は台湾へ輸出されている。今後、中国本土およびアメリカへの輸出拡大に向けて、鮮度を保つためのHACCPに対応した急速冷凍施設を整備し、認定の取得を目指しており、「殻付き生（活）牡蠣」と遜色ない「殻付き冷凍牡蠣」を製造し、商品化することで年間を通じた牡蠣の提供を可能とする。

#### ② 養殖生産拠点の形成

養殖業では、クロマグロ、トラフグ等の魚類養殖や真珠養殖、カキ類の養殖が行われており、近年は環境の変化に影響を受けにくい陸上養殖に取り組む業者もいる。トラフグ、ウニ等を新たに陸上養殖する業者を支援するとともに、販路確保や生産体制の強化を図る必要がある。

## (2) 海洋環境の変化や災害リスクへの対応力強化による持続可能な漁業再生の確保

### ①環境変化に適応した漁場生産力の強化

当該圏域を含む壱岐地区の漁業生産量については、近年減少傾向にあり、また、令和3年度に県下全域で実施した藻場分布調査では、海水温の上昇が原因と思われる藻場面積の減少が確認され、今後の資源の悪化が懸念されている。そのため、水産資源の回復・増大を図るため、漁業者等が自主的に行う資源管理等の取り組みと連携しながら、沿岸から沖合いまで水産生物の成長に合わせた漁場づくりや環境の改善を実施、併せて増殖場の整備効果を確認するため、潜水調査やサンプリングによる餌料生物や魚類、藻類等の生育状況を継続的にモニタリングし、必要に応じ、植食性生物の駆除や藻類種苗の追加等の対策を講じる。

### ②災害リスクへの対応力強化

近年多発する台風・大雨・高潮・地震などの自然災害に備え、災害に強く、漁業者の安全・安心な暮らしと命を守る漁村づくりに向けた施設整備やソフト対策を行う。

また、機能保全計画に基づいた施設の計画的な機能保全対策を実施する。

## (3) 「海業」振興と多様な担い手の活躍による漁村の魅力と所得の向上

### ①「海業」による漁村の活性化

漁村では、地域の活力が低下していることから、漁村への交流人口の拡大など漁村の活性化を図る必要がある。都市からの交流人口拡大と壱岐島の地域振興を図るため、高速船発着場周辺の整備を行い、利便性の向上を図る。都市と漁村との交流促進による漁村集落の活性化をめざし、体験型漁業や民泊などブルーツーリズムに取り組むとともに、島内需給を促進するため、イベントでの直売会の実施や地元商店での地場産品コーナー開設、消費者と直結した販売、学校給食への利用等を促進する。

### ②地域の水産業を支える多様な人材の活躍

漁港・漁村における生産活動は、女性や若者から高齢者までの幅広い世代、外国人技能実習生など多様な人材によって支えられており、安全で働きやすい環境と快適な生活環境の整備は、担い手確保にあたり重要な課題であり、漁業就労者の労働環境労働環境改善につながる浮棧橋や防風・防暑施設等安全・安心な施設整備に取り組む。また、磯根資源の回復により新規就業者や女性、高齢者の就業機会を確保するため、藻場機能を有した増殖場の整備に取り組む。

### 3. 目標達成のための具体的な施策

#### (1)産地の生産力強化と輸出促進による水産業の成長産業化

##### ①拠点漁港等の生産・流通機能の強化

地区名	主要対策	事業名	港湾・漁港名	種別	流通拠点
八幡浦	輸出促進	食料産業・6次産業交付金	八幡浦漁港	1種	

台湾等への輸出ニーズに対応でき、米国輸出も可能となる HACCP 対応型の加工施設を整備し、チルドとほぼ遜色ない品質で冷凍できる急速冷凍施設の導入により高品質な「殻付き冷凍牡蠣」(生食用)の生産を行い、消費期限を大幅に伸ばすとともに、船便により輸送コストを下げ、輸出拡大を図る。

##### ②養殖生産拠点の形成

地区名	主要対策	事業名	港湾・漁港名	種別	流通拠点

#### (2)海洋環境の変化や災害リスクへの対応力強化による持続可能な漁業生産の確保

##### ①環境変化に適応した漁場生産力の強化

地区名	主要対策	事業名
壱岐	環境変化 資源管理 藻場・干潟	水産環境整備

水産資源の維持・回復を図るため、種苗放流や禁漁区の設定など資源管理の取り組みと連携しながら、沿岸域に幼稚仔魚の餌場や隠れ場、成育の場となる増殖場を整備し、その沖合には効率的な漁獲が可能となるよう魚礁漁場を整備することにより、魚の成長に合わせた漁場づくりを行う。

##### ②災害リスクへの対応力強化

地区名	主要対策	事業名	漁港名	種別	流通拠点
大島	安心・安全	生産基盤	大島漁港	4種	
芦辺	安心・安全	生産基盤	芦辺漁港	3種	
芦辺	予防保全	機能保全	芦辺漁港	3種	
恵美須	予防保全	護岸堤防・海岸高潮	箱崎前浦漁港	1種	
諸津	予防保全	機能保全	箱崎前浦漁港	1種	
湯ノ本	予防保全	機能保全	湯ノ本漁港	1種	
山崎	予防保全	機能保全	山崎漁港	1種	
芦辺(瀬戸)	予防保全	機能保全	芦辺漁港	3種	

近年の大型化している台風等の波浪による施設機能不足や、老朽化した施設の改良、機能保全工事を行い災害リスクへの対応力強化に取り組んでいる。

### (3) 「海業」振興と多様な担い手の活躍による漁村の魅力と所得の向上

#### ① 「海業」による漁村の活性化

地区名	主要対策	事業名	漁港名	種別	流通拠点
芦辺	地域活性化	農山漁村	芦辺漁港	3種	

瀬戸浦集落に鮮魚販売店がない現状と、買い物難民と称される高齢者世帯が増えていることから、集落内に鮮魚小売店を整備し集落内の方が身近に鮮魚を購入できる環境と、買い物に行くことができない高齢者世帯、壱岐島内における農村部の方を中心に移動販売車を利用し、水産物の消費拡大を図る。事業を展開することで新たな雇用(3名)を行う。

#### ② 地域の水産業を支える多様な人材の活躍

地区名	主要対策	事業名	漁港名	種別	流通拠点
大島	就労環境	生産基盤	大島漁港	4種	
大島	就労環境	機能増進	大島漁港	4種	
芦辺	就労環境	生産基盤	芦辺漁港	3種	
芦辺	就労環境	機能増進	芦辺漁港	3種	
初瀬	就労環境	農山漁村	初山漁港	1種	

強風時や潮位差により、準備・係留作業等が重労働かつ非効率となっていることから、防風施設や浮桟橋を整備し就労環境の改善に取り組んでいる。

## 4. 環境への配慮事項

藻場は、多種多様な生物の産卵の場や幼稚魚の成育の場、海水の浄化など多様な機能を有しているが、近年「磯焼け」の拡大による藻場の消失が進行している。

このため、漁業資源の回復には藻場回復を計画的、効果的に進める必要があるとの地域の漁業関係者が共通認識の下、10年後の回復目標を定めた「長崎県藻場回復ビジョン」(平成28年7月)に基づき、関係者が一体となってソフト事業、ハード事業の両面から総合的な藻場回復に取り組んでゆく。

ソフト事業の面では、漁業協同組合を中心に「藻場見守り隊」を設置し、回復目標に向けた長期及び各年度の活動計画を定めた「地域藻場回復計画」を策定して地域別、藻場の状況別に対応策を講じることとし、ハード事業の面では、藻場見守り隊の活動に呼応して、藻場繁茂の基質と核藻場礁を整備する増殖場の整備事業を実施し、さらに磯焼け対策緊急整備事業等を活用して早期の藻場機能の発現を促し、藻場の拡大と早急な資源回復を図るとともに、漁港施設においても環境配慮型ブロックの設置等を推進して、漁場環境の改善を進める。

## 5. 水産物流通圏域図



対馬

# 長崎県 水産物流通圏域図 (各岐圏域)

**上対馬圏域** 外海離島型  
 圏域総陸揚量: 3,968 t  
 圏域総陸揚金額: 30.6 億円  
 漁港: 17港, 港湾: 4港

**各岐圏域** 外海離島型  
 圏域総陸揚量: 1,916 t  
 圏域総陸揚金額: 18.4 億円  
 漁港: 11港, 港湾: 4港  
 <養殖生産>  
 圏域養殖総生産量: 395 t  
 圏域海面養殖業総算出額: 10.3 億円  
 主要養殖魚種: マグロ

**中対馬圏域** 外海離島型  
 圏域総陸揚量: 7,879 t  
 圏域総陸揚金額: 90.8 億円  
 漁港: 26港, 港湾: 2港

**宇久・小値賀圏域** 外海離島型  
 圏域総陸揚量: 1000 t  
 圏域総陸揚金額: 8.8 億円  
 漁港: 17港, 港湾: 0港

下記3漁港は合併していますが、地区ごとに記載しています。  
 ・渡良漁港(麦谷、渡良柏、和歌、神田、小崎)  
 ・初山漁港(大久保、初瀬)  
 ・箱崎前浦(諸津、恵比須)

出荷凡例詳細	
50t未満	→
50~100t	→
100~500t	→
500~1000t	→
1000~5000t	→
5000t以上	→

- ←: 流通拠点漁港 (うち流通・輸出拠点漁港 (輸) ←)
- ◎: 生産拠点漁港 (うち流通・輸出拠点漁港 (輸) ←)
- : 一般漁港 ←
- : 港湾 (漁業関係の利用がなされている主要な港湾のみ) ←
- ☆: 産地市場 ←
- 漁業: 主な魚種 ←  
 (主な漁業種が、(大) (巻き網・底引き網等、) ←  
 (採貝) (採貝) (養殖) (養殖) の場合は示す) ←
- ←: 水産物集約 (漁船陸揚げ) ←
- ←: 水産物集約 (陸送) ←
- : 加工場・消費地への出荷 ←  
 (主な出荷先として、圏域内、圏域外の県内、  
 県外を示す。輸出している場合は、輸出先の国等を  
 できる限り示す。) ←
- ←: 養殖に係る水産物の流れ ←
- ←: 養殖漁場 ←

